

八幡平いにしへの宝

(市内にある指定文化財を紹介します)



溶岩球

焼走り溶岩流

所在地：平笠上坊国有林内
 指定年月日：1952年3月29日(国) ※特別天然記念物

岩手山の始まりは約70万年前と考えられ、噴火活動を繰り返し、約6,000年前(縄文時代前期)の噴火で、現在の山頂(薬師岳)ができたといわれています。

焼走り溶岩流は、1732年岩手山の北東斜面の山腹の噴火活動でできました。標高約970m付近の2カ所から噴出した溶岩は、東北東方向へ標高約575mまで流れ下り、次第に幅を広げ、長さ約3km、末端部の最大幅約1km、厚さ約10mの溶岩原をつくりました。この溶岩原は灰黒色で、主に多孔質の大小の岩塊(安山岩)ですが、珍しい溶岩球^(註)も見られます。

焼走り溶岩流の特徴は、280年以上たっても、あまり植物が侵入しないで、噴火直後のように見えることです。今は溶岩原の岩塊上に、菌類を本体とし、緑藻類、ラン藻類の共生体であるハイイロキゴケなどの地衣類、亜高山や高山の日当たりのよい岩上に生えるシモフリゴケなどの蘚苔類がマット状に広がっています。さらに岩塊の割れ目や凹地には、植物片などの堆積で土壌がつくられ、オオイタドリやノリウツギ、アカマツ、ミネヤナギ、ダケカンバなどが点々と生え、それらの小集団も発達しています。本格的な植物の侵入は、そう遠くないようです。

(文・八幡平市文化財保護審議会委員 八幡輝夫)

(注) 固結溶岩の破片が溶岩流を転がってきたと考えられている。焼走りの溶岩球(球体・楕円球体)は直径20cmから60cmで、1m近いものもあり、噴火口付近にはなく、下方に広く流れている。

《参考文献》 焼走り溶岩流学術調査委員会(菅原亀悦編)(1993) 焼走り溶岩流学術調査報告書(西根町) 土井宣夫(1998) 岩手山の噴火史 火山噴火予知連絡会会報 No.71

編集後記

写真撮影は、冷静な心が大事なんですね。市小学校陸上競技会の時、良い瞬間を撮りたいとカメラを構えましたが大、大声を出して応援したい気持ちで必死に抑え、「歳のせいかな」子どもたちの頑張る姿を見ただけで緩む涙腺も、これまた必死に抑え、肝心の写真は……。▽敬老会では、普段さまざまな場面で活躍している人が、実は招待される側だったと分かり、びっくり。私も「歳のせいかな」とは言っていられないですね。(齋藤)

「ZOOM UP」の中で紹介した八幡平市B級ご当地グルメ「あぶら汁」と「蕎麦かた焼きそば」。8月に参加した広報担当者の研修会で、岩手町の広報担当者「北緯40度ご当地グルメ博」のPRをしていたとき、他市町村の担当者からどんなものか聞かれ、答えることができなかつた苦い思い出がありました。取材後、撮影に使用した2品はしっかりと私の胃袋の中へ収まり、おいしい思い出になりました。(北口)

平成23年10月6日発行(毎月第1・3木曜日発行)
 〒028-7192 岩手県八幡平市大更35-62
 ■ホームページ http://www.city.hachimantai.lg.jp/

■発行 岩手県八幡平市 ■編集 企画総務部総務課
 〒0193-76-2111 電話0195-75-0469
 ■印刷 山口北州印刷株式会社